

福岡県福岡市西区方言における 身体感覚を表すオノマトペ

岡野信子

はじめに

1. 調査対象地 福岡市西区今宿町。博多湾に面した町で、古くは志摩郡今宿村、明治29年からは糸島郡今宿村、昭和16年、福岡市に編入。以前は農村であったが今はベッドタウン化しつつある。
2. 調査年月日 平成3年12月15日
3. 話者 安部正助 (アヘマサキ) 大正14年3月15日生。出征前までは信用組合勤務。生家は農業。出征して、敗戦後は昭和24年までソ連抑留。帰国後は三菱電機勤務。現在は寺の門徒会会長。
4. 調査者・調査場所 岡野信子・松尾拓成氏宅(安部氏宅の近く)
5. 調査方法 『方言資料叢刊』第2巻調査票に基づく面接質問調査

I 全身の感覚

1-1 快不快

さっぱり サッパ^リ

○風呂に入ってサッパ^リ シタ^リ ナー。

1-2 寒さ

がたがた ガタガタ<恐ろしい時にも>

○ガタガタ フルエテ サムーシテ(寒くて)。

○ガタガタブルイジャ モン。

ぶるぶる ブルブル・ブツブツ<ブルブルに同じ。古老>

ぞくぞく ゾゴゾゴ・ゾゴ^ーゾゴ

○ゴタエノ(背中が) ゾゴ^ーゾゴ スル ヤネー。カゼ ヒキヨル
ツチャロー。

すうすう ス^ース^ー<すき間風を背中に感じるような寒さに言う>

1-3 熱さ

ほかほか ボッポする。ポー^{ット}なる<よい気分>

かっか カッカ<熱くなった状態・怒って興奮している状態にも言う>

○卵酒を飲んだらカッカシテ キタ ヤネー。

II 皮膚の感覚

ひりひり ヒリヒリ・ヤリヤリ<焼けつく感じ。気分的にもいらだつ感じである>

べたべた ベタ^ベタ^ベ・ベター^ベタ^ベ・ベタ^ベタ^ベタ^ベタ^ベする<汗で>・ベタツク<動詞>

むずむず 皮膚感覚には言わない。4-5参照。

- もぞもぞ モゾモゾする・モゾモゾモゾモゾしてから。〈何かが入っている感じ〉
- じがじが ジガジガく毛ばだった物が背中に入った時の感じ〉
- ちかちか チカチカくとげなどのささった感じ〉
- ちくちく チクチクく短い髪毛が背中に入って刺す感じ〉
- かさかさ カサカサ・カサカサ シトル・カサカサニ ナットル。
- がさがさ ガサガサくカサカサより乾燥度が強い〉
- ばりばり バリバリく古老。女性が荒れた手で絹物などをさわったときの感じ〉
- すべすべ スベスベ シトル・スベスベニ ナルくなめらかな感じ。手ざわり〉
- つるつる ツルツル シトル・ツルツルニ ナルくすべるようなてざわり〉
- つやつや ツヤツヤく血色もよく、なめらかで光っている。視覚擬態語〉
- ハダノ ツヤツヤシテ ゴザル。(肌がつやつやしていच्छる)
- しっとり シットリ・シットーリくうるおいのある感じ〉
- ずきずき ズキズキ・ズキーズキ・ズキンズキン・ズッキンズッキンく切り傷の痛み、打ち身の痛み、とげのささった痛み〉
- ひりひり ヒリヒリく擦り傷の痛み・やけどの痛み〉・ヒラヒラ
- やりやり ヤリヤリくやけどの痛み。ヒリヒリよりきつい痛み〉
- ちかっと チカットく注射針を刺した時の瞬間的な痛み〉
- ずきずき ズキズキ・ズクズクく腫れてきて、化膿しそうな時の痛み〉
- ズクズク シハジメタガ コラ ウミモチヨルッチャロー カ。
- ずきんずきん ズキンズキン・ズッキンズッキンく化膿するときの強い痛み。脈打つ感じ〉
- ぼとぼと 該当語なし。腫んでしまうと痛まない。
- ぶよぶよ ブヨブヨ・ブヨブヨ ナットルく痛みではない。状態を言ったもの〉
- じんじん ジンジン スルくしもやけの痛み〉
- むずむず ムズムズく軽いしもやけの、あたたまった時の感じ〉

Ⅲ 頭部の感覚

3-1 頭

- がんがん ガンガンく頭の割れそうな激しい痛み〉
- アタマノ ガンガンシテカラ ネラレンヤッタ ヤナー。
- くらくら クラクラくめまいのする感じ〉・フラフラくクラクラより程度が軽い。体全体の調子に言うことも多い〉
- ぼーっと ボーットく明晰ではない〉
- アタマノ ボーット シトルガ ヤッバー コラ ネットノ カゲン ジャロー。(頭がぼんやりしているが、やはりこれは熱のせいだろう。)
- ずきずき ズキズキく二日酔いで、こめかみのあたりが脈打つような痛み〉・ズッキンズッキンく二日酔い、おまけに風邪をこじらせたような時の頭

痛>

3-2 顔面

かっか カッカ<ほてる感じ>

○ハズカシューテ カオノ カッカシテカラ。

ぼっと ポーット<ポーット ナルと言う。ポーット スルとは言わない>

○ポーット アコー ナッタ。

3-3 目

ちかちか チカチカ・チカーチカ<テレビの見すぎの時、煙が目にしみた時、日射しの強い時の刺すような痛み>・チカーット<目にごみが入った時の痛み>

ちらちら チラチラ<疲れていて、視線の定まらない感じ>・チラチラ スル

しょぼしょぼ ショボショボ・ショボーショボ<目が疲れている感じ>・シバシバ<目が疲れていて、何度も目ばたきしたくなる感じである>

ごろごろ コロコロ<目に異物の入った感じ>・ゴロゴロ<コロコロより強い感じ。コロコロ スルと言うほうが多い>

3-4 耳

きーん キーント スル<近くで飛行機が急降下した時などの、金属的な耳鳴り>

っーん ツーント スル<トンネルに入った時の、耳のつまった感じ>

じーん ジーント スル<異物の入った感じ>

じくじく ジュクジュク<耳だれの時の感じ>

○耳だれでミミン ナカガ ジュクジュク シヨル

3-5 鼻

むずむず モゾモゾ<くしゃみが出そうな時の感じ>

ぐじゅぐじゅ グスグス<グスグス イワセルと言うから擬声語であろう。風邪ひきの鼻づまりの状態>・クスンクスン

ずるずる ズルズル<鼻水をすする音。ズルズル イワセルと言うから擬声語であろう。>

っーん ツーン<わさびを入れすぎて>

○ハナイ ツーント キタ。<ツーント スルとは言わない>

3-6 口

(口全体)

ねちゃねちゃ ネバネバ<ネチャネチャよりよく言う>

○クチン ナカガ ネバネバ スルケン アタキヤ(私は) ナット
ニワ タベキラン ヤネー。

* 該当語なし <クチガ マガルゴト スイーのように比喩的に言う>

* 該当語なし <アマタラシー・アマタラシカのように形容語で言う>

(歯)

がちがち ガチガチ<~鳴りヨルと言う。寒くて歯の根の合わない状態>

- かちかち カチカチ<ガチガチより程度が軽い>
 ずきずき ズキズキ・ズキズキズキズキ・ズッキンズッキンズッキンズッキン<ひどい痛さ>
 ちくちく チクチク<虫歯になりかけた時の痛み>
 ○ムシバノ チクチク ショル。ソロソロ コラ ハイシャ イカナ。

(舌)

- ひりひり ヒリヒリ・ヒラヒラ<辛いカレーを食べた時など>
 ぴりぴり ピリピリ<わさびやこしょうなどの辛さ。ヒリヒリより強い>

3-7 喉

- からから カラカラ<乾ききっている状態>・カラッカラ<乾燥度が一段と強い>
 ○アノノ(喉が) カラカラニ ナッタ ヤナー。
 いがいが イライラ<たばこを吸いすぎた時の感じ>イラツク<動詞><あくのぬけていない筍を食べたときの感じを言うオノマトペはないようである。形容詞エグイ、動詞エグルで表現する。>
 ぜえぜえ ゼーゼー<気管支炎、喘息の時の息づかい>・ゼーコラゼーコラ
 ○アノタ イサギュー(ひどく) ゼーゼー ユーナー。
 ひゅうひゅう ヒューヒュー<百日咳の時の息づかい>

IV 胴体の感覚

4-1 肩

- こりこり コリコリ<コリコリニ コワツトル(凝っている)と言わないこともないが、まれ>・ゴリゴリ<ゴリゴリ スルはあまり言わない。ゴリゴリイー ヨル、ゴリゴリニ ナツトルと言う>
 ○カタノ ゴリゴリ コワツテ(凝って) シモータ ヤナー
 かちかち カチカチ<若い人は、カチカチニ コットーと言うようである>

4-2 胸

- どきどき ドキドキ<恐ろしい時、あるいは何かを期待して緊張している時の動悸>
 どきんどきん ドキンドキン<ドキドキより強い>
 どっきんどっきん ドッキンドッキン<ドキンドキンよりさらに強い>
 とくんとくん・とっくんとっくん<ともに該当語なし>
 きゅっと キューツト<悲しくて胸がしめつけられる>
 むかむか ムカムカ・ムカームカ<吐き気をもよおした時、また怒りで胸がおさまらない時>
 ○ムネノ ムカムカ スルガ ナンノ アタッタッチャロー カー。
 ○ケタクソノ ワルカ。(いまいまい) ムカムカ スル。

4-3 腹

(空腹)

- ぐうぐう グーグー<空腹時の腹鳴り。~イニヨル・~ナリヨル・~ナキヨル>

きゅるきゅる 該当語なし

ぺこぺこ ペコペコ<空腹の状態>・ハラペコ<腹がペコペコだ>

(満腹)

だぶだぶ ダブダブ・ガボガボ<湯茶を飲みすぎた状態>

ちゃぼちゃぼ・ちゃぶちゃぶ タツツタツ<湯茶を飲みすぎた状態>

ばんばん バンバン<食べすぎの状態><ペコペコの対照語>

○イサギュー (ひどく) クイスギテカラ ハラー バンバンニ
ナッ シモートル (なっている)。

(腹下し)

ごろごろ ゴロゴロ<下痢の前の腹鳴り>・グルグル<ごろごろよりやや軽い状態>

○ナンガ アタツタツチャロー カネー。ハラノ ゴロゴロ イーハ
ジメタ ガー。

びーびー ビービーシャーシャー<下痢のはげしい状態><～スル・～ユー・ニナルなどに続かない>

○ビービーシャーシャー イキッパナシヤ モン。

しゃーっと シャーット<シャーット クダス>

(腹痛)

ぐじぐじ グジグジ・グジーグジ<さしてひどくはないが、何か気になる腹痛>

○ドゲーカ グジーグジ シヨル バイ (してるよ)。

4-4 胃

しくしく シクシク<若い人は言うかもしれない>

じくじく ジクジク<強くはないが持続する胃痛>

きりきり キリキリ<鋭い胃痛>・キリキリキリキリ・キリキリーツ

4-5 尻

むずむず 該当語なし。ムズムズは、言いたいことが言い出せずもどかしい気持ち。

もぞもぞ モゾモゾ<「シリノ モゾモゾ スル」は「シリコソバイカ」とほぼ同じ心情を言っている>

V 手足の感覚

(手)

ぶるぶる ブルブル<緊張しすぎた時の、あるいは病気のための震え>

(足)

がくがく ガクガク<膝頭の小刻みな震え>・ガクーンガクン<膝頭に力が入らず歩きにくい状態>

がたがた ガタガタ<恐ろしい時の足の震え>

かちかち カチカチ シトル・カチカチニ 張ツトル<ふくらはぎのこわばり>

じんじん ジンジン・ジンンジンジンジン<しびれのきれかけている時の感覚>

○シビンキョーノ ハイツテカラ (しびれがきれて) アシャー ジー

フジンジン シテカラ。

ぬるぬる ヌルヌル・ヌルーヌル・ヌルヌルヌル・ヌルヌル < 粘液質のものを踏んだ時、
あるいは手に握った時の感触 >
ぬらっ(と) ヌラット・ヌラーット < 同上 >

VI 関節(骨)の感覚

ごきごき 該当語なし。 < 「寝チガエテ クビノ マーリヤー セン モン」と言
う >

ぐきぐき 該当語なし。

ばきばき 該当語なし。

ほきほき ホキホキ < 骨のもろく折れる状態を言う。また指の関節を鳴らす音 >
ほきっと ホキット・ホキーット < もろい折れ方を言っている >

VII 体全体

ぐにゃぐにゃ グニャグニャ < 体全体が骨抜きの感じである。対照語は ジャント >

まとめ

1. 擬声語；「喉がゼーゼーいう」、「腹がグーグー鳴りよる(泣きよる)」のよ
うに、「いう」「鳴る」「泣く」を修飾するものは擬声語と考えられる。
2. 語形；「カチカチ」「スー
スー
スー
スー」のように、二音の反復語形がもっとも
多い。「ポッポ」「カッカ」のような三拍語、「サッパリ」「シットリ」のよ
うな
り語尾四拍語はこの分野には少ない。「チカッ」チカッ」「ジーン」ジーン」のよ
うに「ト」を
添えた語形はわりあい多い。
3. 語形の展開；たとえば「ゾゴゾゴ」は「ゾゴ
ー
ゾゴ」、「ズキズキ」は「ズキ
ズ
キ
ズ
キ」「ズキ
ー
ズキ」「ズッ
キ
ン
ズ
ッ
キ
ン」「ズッ
キ
ン
ズ
ッ
キ
ン
ズ
ッ
キ
ン」のよ
うに展開する。長音・促音・撥音は意味的には強調に働いている。ま
た「カサカサ」と「ガサガサ」、「ヒリヒリ」と「ピリピリ」のよ
うに、濁音・半
濁音も強調に働く。
4. 修飾；多くは「する」に続くが、「ブルブル震える」の「ブルブル」、「腹がバ
ン
バ
ン
にな
るとる」の「バンバン」のよ
うに「する」に続きにくいものもある。
5. 同音異義；「歯をカチカチいわせて」「足がカチカチに張っとる」のよ
うに、同
音異義のものもある。
6. 造語；「イラツク」のよ
うに「ツク」を添えて動詞をつくるものがある。また
「ガタガタブルイ」のよ
うに名詞を形成することもある。

(おかののぶこ 梅光女学院大学)